

モザイク通信

No.107 2018/March

発行/モザイク会議 議長 森敬美

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/ Email:maaj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

平成 30 年度**定時総会**は

4 月 22 日（日）13 時～ 17 時に決まりました。

場所は久しぶりに、渋谷勤労福祉会館です。

通常の議題のほか以下イベントを用意しています。

○対談「モザイクのかたち」

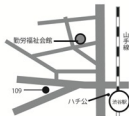
日本におけるモザイクのバイオニアお三方に語っていただきます。

宮内淳吉（武蔵野美大 FM 壁画集団に所属）

橋村元弘（1970 年壁画工房開設の草分け）

上智男（1971 年壁画工房開設の草分け）

○モザイク展 2017 カタログ配布



勤労福祉会館 東京都渋谷区神南 1-19-8

モザイク 2018 オリエ展

9 月 22 日～28 日 於・ギャラリーオリエ（港区北青山 2-9-16 AA ビル 1 階）

募集要項は 1 月中に会員の皆さんにお送りしています。

手違いで届いていない方や、質問のある方は小田いくこ（03-5272-3232 夜間のみ）

まで連絡ください。

サルデーニャレポート

記・若月弓枝



制作会場の広場



作品発表の夜



若月さんの制作の様子

2017年7月29日～8月16日、イタリアで開催された、
"2nd International Symposium of Contemporary Mosaic
Ploaghe 2017"に参加してきました。

このシンポジウムに参加することになったきっかけは、突然のFacebookメッセージでした。2016年12月、主催のアーティストであるジュリオ・メノッソさんからメッセージが届きました。当時、彼とは全く面識がなく、イタリア語もわからず、絵文字たっぷりのメッセージを不思議に思い、数日間そのままにしていた。その後やはり気になる翻訳してみると、なんとシンポジウムへ招待して下さいとの内容！そして、確かに私宛て！！半信半疑のまま返信したところ、早速詳細確認のやりとりが始まりました。夢のような話に、大興奮だったことを思い出します。

シンポジウムは、サルデーニャ島の北西部にあるプロアージェという小さな町の元修道院で開催されました。スポンサーやボランティアの皆様が協力して下さい、町全体が賑わう大きなイベントでした。各国から集まったアーティストそれぞれが、テーマに沿った規定の大きさ(70cm x 70cm以上)の作品を会場で作成し展示します。アメリカ、アルゼンチン、イスラエル、オーストリア、ギリシャ、トルコ、プエルトリコ、日本から、計12名の参加です。

シンポジウム開始2日前にはほぼ全員が現地到着。本格的に作り始める前に、今回のテーマである「Sardus Pater」の学びを深めるため神殿を訪れたり、古代遺跡・ヌラゲを見学したりしました。おそらく50℃近い、本当に暑いエクサカーションでしたが、みんなて楽しく競技を深めました。

制作期間が限られているため、いつ開始するのかと内心ハラハラしていた頃、開幕式が行われ、全員に名前入りのエプロンなどが配られました。(私の名前のスペルが違っていただけれど、それは愛嬌！)そろそろ本番です。制作期間は実質1日ほどで、最後の3日間が展示期間でした。合間に、ワイナリー訪問やサルデーニャ出身のミュージシャンのライブ鑑賞などを企画していただき、仲間と共同にとっても楽しい時間を過ごしました。期間中、自分のプランと進行状況と展示までの残りの日数を気にしながら、毎日ひたすら作ります。朝はハウスメイトと近くのカフェに寄り、朝9時頃から制作開始。心地よいさわやかな朝の光が、昼頃には暑く強い日差しに変わります。連日40℃越えの猛暑です。私は、日陰を求めて角っこに移動して立ちっぱなしで制作していました。そしていつの間にかそこが私の定位置に…。地元の人たちが制作現場を見にきたり、メディアの取材があったりと、視線を感じながら作ります。夕方になって集中力が切れそうになるころ、コーヒーやコロニータ(ビール)、プロセッコ(スパークリングワイン)などの差し入れが届き、もうひと頑張り。メノッソさんは、全員のコンセプトや進行状況などを確認してまわり、それぞれの作品を手伝ってくれました。一緒に制作するというのも、シンポジウムの醍醐味です。作風は異なるアーティスト同士も、もちろん助け合いながらの制作です。単語だけではなかなか意思疎通は難しいですが、イタリア語が堪能なアメリカ人アーティスト、ジュリー・リッチイが英語で通訳してくれたおかげで、とても有意義な機会となりました。



記念撮影
最後の晩餐を模して

制作活動のあとは、夜9時頃からみんなでディナータイムです。このシンポジウムの企画・運営に最も尽力して下さったアントニア&ファビアーノの経営するレストランで、贅沢に本格的なイタリアンを堪能しました。掃りはいつも0時頃でヘトヘトでしたが、ボランティアの方々が無事家の前まで送って下さり、安心して充実した夜を過ごしました。展示会前日に無事作品が完成し、いよいよ展示です。夕方のオープニングには、とても大勢の人が集まって下さり、想像以上の大盛況でした。暗くなると作品がライトアップされ、さらに良い雰囲気です。展示期間中、お世話になったアントニア&ファビアーノにプレゼントするため、有志でレストランの看板を作りました。半日で内緒のスピード制作。

またまたメノッシさんが手伝ってくれました。感謝の気持ちの表現や団結力が、とても素敵なことであると再認識した時間でした。

名残惜しい最終日、仲間たちで「最後の晩餐」を写真に納めることにしました。主役はもちろんメノッシさん。小道具としてズマルトやハンマーなどをセッティングし、それぞれの役を演じて撮影です。何度も何度もやり直し、だんだんポーズを維持するのが難しくなってきますが、モザイクを作っている時のようにみんな真剣。最高の思い出作りで締めくりです。それぞれが自国に戻ってから、安否確認やら近況報告やらで、しばらくグループメッセージが止まりませんでした…。このシンポジウムでの素晴らしい出会いと貴重な体験に感謝し、今後さらにモザイク制作において研鑽を積み、ステップアップを目指したいと思います。



マエストロ、ジュリオ・メノッシ



若月さんの作品「サルダス・パーティーの旗」

国際モザイク作家協会主催

モザイクシンポジウム・フランス大会

行ってみませんか。

ラヴェンナに本部を持つ国際モザイク作家協会（AIMC）の第16回シンポジウムが今年フランスのバレ・ル・モニアルというリヨン近くの町で開催されます。ちなみに第4回シンポジウムは1994年に鎌倉で開催され、モザイク会議創設のきっかけになりました。

日程・10月15日（月）から17日（水）までの三日間

シンポジウムでは世界中からモザイク作家が集まり、モザイク作家の発表、モザイク小品展が開催されます。シンポジウムの後、リヨンを中心にローマ時代の遺跡やモザイク美術館。またモザイクで覆われた大聖堂の見学、食の町としても有名なりヨンの歴史的レストランでの会食などが予定されています。また、ツアーには含まれていませんが、シャルトルでは10月20日から国際モザイクコンクールが開催されます。シンポジウム入場料は100ユーロ、リヨンツアーは70ユーロです。

宿泊代は大体一泊1万円、航空券は10～14万円です。一週間ほどの滞在で食費を含めた予算は30万円ほど。

宿を予約する都合もありますので、4月末日を募集期限にします。

傍聴希望者は喜井までメールください。kiiing@kc5.so-net.ne.jp

シンポジウムの詳細を伝えます。

リヨン到着から10月20日までは喜井豊治が引率します。

帰国は各自で頑張ってください。



フランスで年に2回発行されているモザイクマガジン最新号が出ました。

今号は昨年10月に行われたラヴェンナモザイクというラヴェンナ市を挙げてのモザイクフェスティバルの特集が中心です。

一冊3000円（送料込み）です。

ご希望の方は喜井までメールで連絡ください。

kiiing@kc5.so-net.ne.jp